
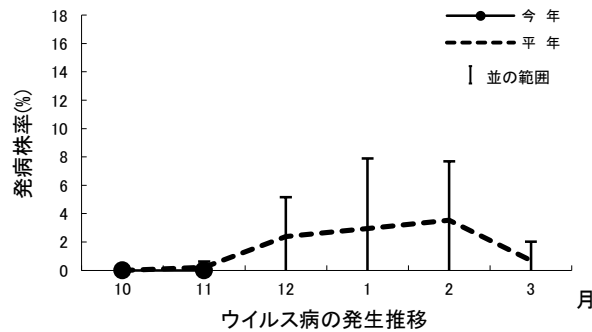


作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	① ウイルス病		
11月の発生量（現況）	(発生なし)並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病株率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

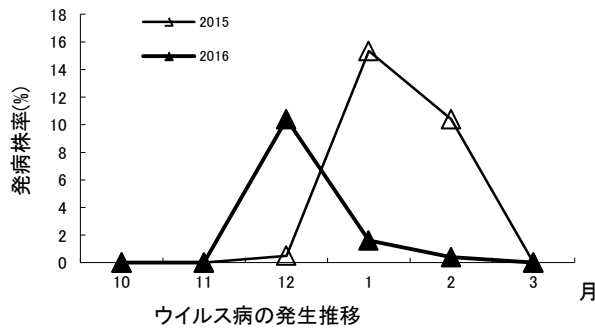
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月下旬の調査の結果、発病株率は0%（前年0%、平年0.2%）と平年並であった。
- ・ 防除員の報告によると、ウイルス病の発生程度は「中」であった。

(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

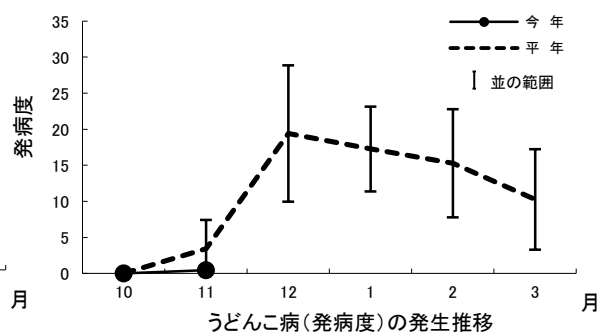
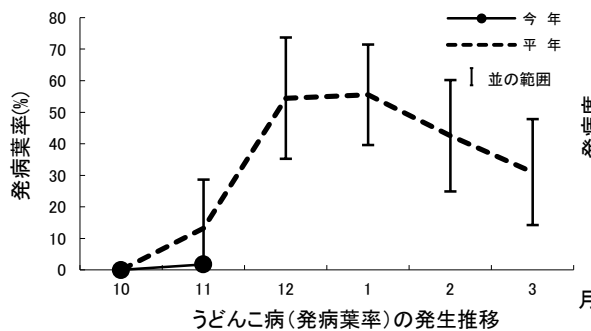
- ・ ほ場周囲に防風対策を兼ねたソルゴーや防虫ネット等を設置し、媒介虫であるアブラムシ類の飛来侵入を防ぐ。
- ・ 媒介虫の密度が低くても感染力は高いので、葉裏をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ 発病株は感染源となるので見つけ次第抜き取り、ほ場外へ持ち出し処分する。
- ・ 本病は汁液伝染するので、ハサミや手の消毒、洗浄を行う。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	② うどんこ病		
11月の発生量（現況）	並		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

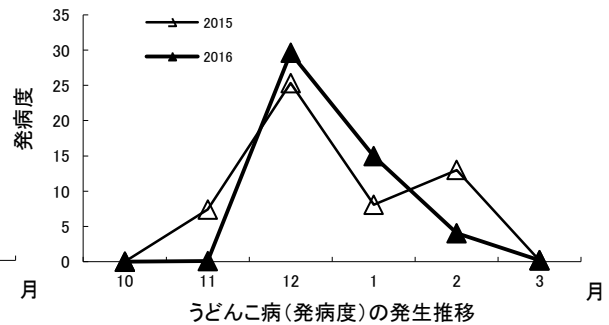
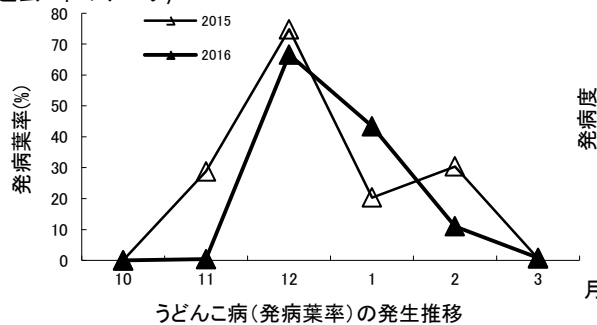
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月下旬の調査の結果、発病葉率は1.8%（前年0.4%、平年13.3%）、発病度は0.5（前年0.1、平年3.4）と平年並であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



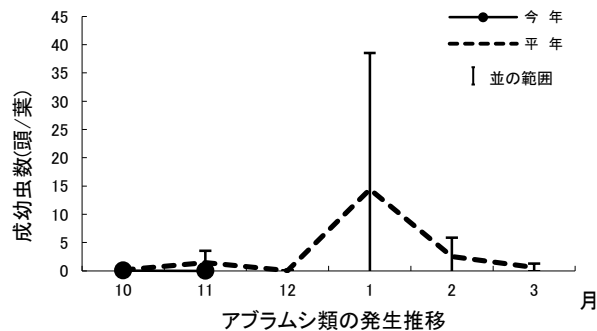
防除のポイント

- ・ 発生源となる老葉や不要な下葉を除去し、透光通風を良くする。
- ・ 生育初期は徒長しないよう管理し、予防散布を行う。
- ・ 着果期以降は草勢の低下に伴い被害が急激に広がる場合があるので防除を徹底する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の感染源になるため除去する。

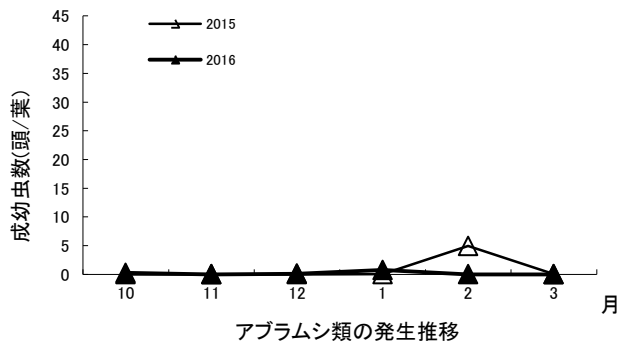
作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	③ アブラムシ類		
11月の発生量(現況)	(発生なし)並		
12月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、11月と同程度の発生量と考えられる。		

発生量の根拠(調査結果)

- ・ 11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫・幼虫数は0頭(前年0.1頭未満、平年1.5頭)と平年並であった。
- ・ 防除員の報告によると、アブラムシ類の発生程度は「中」であった。  
(今年のデータ)




(過去2年のデータ)



防除のポイント

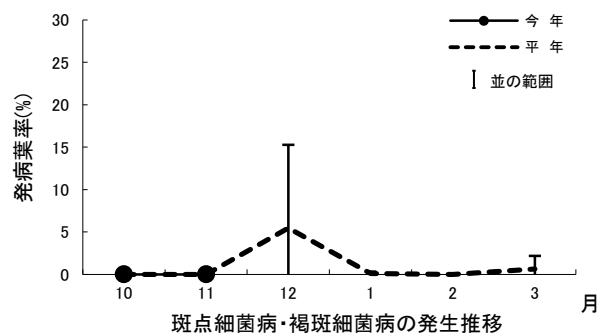
- ・ 本種はウイルス病を媒介する。
- ・ ほ場周辺に防風対策を兼ねたソルゴーや防虫ネット等を設置し、有翅虫の飛来侵入を防ぐ。
- ・ 葉裏をよく観察し、早期発見・早期防除に努める。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	細菌性病害		
11月の発生量（現況）	(発生なし)判定不可		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発病葉率の平年の発生推移、今後1ヶ月の降水量が多い見通しから、11月より発生量は増加すると考えられる。		

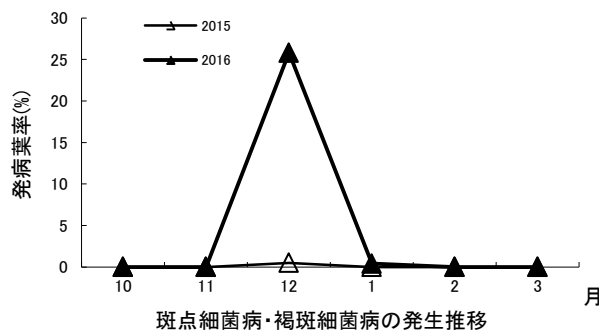
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月下旬の調査の結果、発病葉率は0%（前年0%、平年0%）であった。

（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



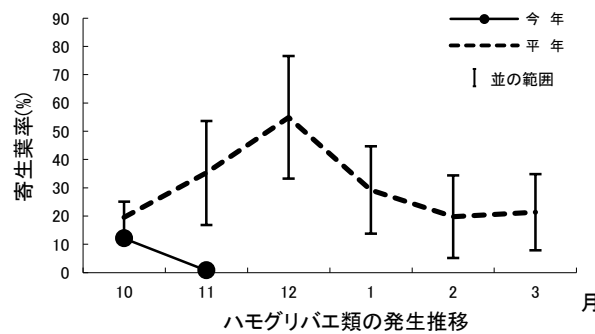
防除のポイント

- ・ ほ場周囲にソルゴーや防風ネット等による防風垣を設置し、収穫期まで残す。
- ・ 降雨や強風などの気象条件が続くと急激に広がる場合があるので、風雨前後の予防散布を徹底する。

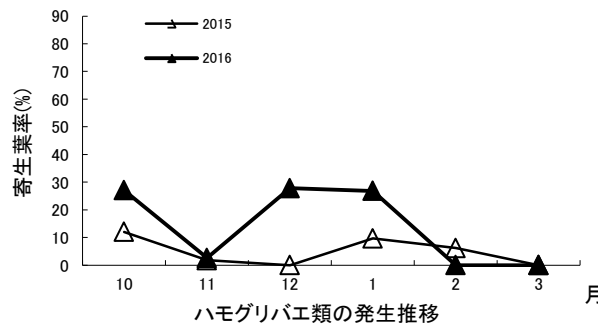
作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	④ ハモグリバエ類		
11月の発生量（現況）	やや少		
12月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	寄生葉率の平年の発生推移から、11月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月下旬の調査の結果、寄生葉率は0.8%（前年2.6%、平年35.2%）と平年よりやや低かった。  
（今年のデータ）




（過去2年のデータ）



防除のポイント

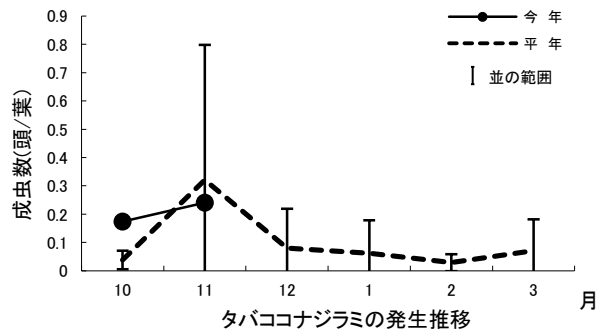
- ・ 多発すると防除が困難になること、また寄生痕からうどんこ病や細菌性病害が侵入する可能性があることから、発生初期の防除を徹底する。
- ・ 幼虫期間が短いため、葉面に産卵痕や食害痕が見え始めたら防除を開始する。
- ・ 防除効果は幼虫の体色で判断する。生存時は黄色で死亡すると黒変する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。

作物	かぼちゃ	地域	宮古群島
病害虫名	⑤ タバココナジラミ		
11月の発生量（現況）	並		
12月の増減傾向	↓		
増減傾向の根拠	成虫数の平年の発生推移から、11月より発生量は減少すると考えられる。		

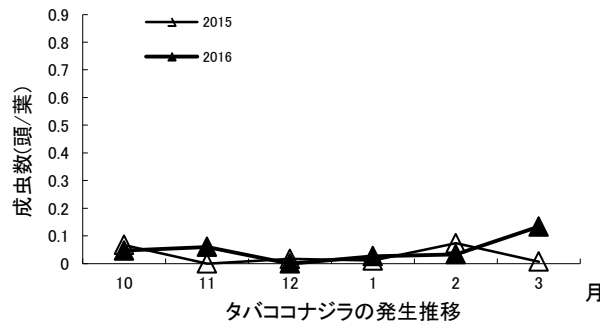
発生量の根拠（調査結果）

- ・ 11月下旬の調査の結果、葉当たり成虫数は0.2頭（前年0.1頭、平年0.3頭）と平年並であった。

（今年のデータ）



（過去2年のデータ）



防除のポイント

- ・ 多発すると白化症を引き起こし生育不良となる場合があることから、初期生育の防除を徹底する。
- ・ ほ場周辺の雑草は本種の発生源になるため除去する。
- ・ 薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。